

板野中学校 同和教育だより

MY SKY No. 23

マイ・スカイ

2001年3月13日(毎月第1・第3火曜日きまぐれ)発行

発行者

編集・文責
駐吉成正士
副次本知己

◇卒業生へ、1・2年生へ、私たちからのメッセージです。

3年生のみなさん、いよいよ卒業式ですね。長いようで短かった3年間だったのでは……。1・2年生のみなさんも、来週には今の学年が終わりとなります。みんながそれぞれの峠の岐路に、今立とうとしているわけです。そして私が書くマイスカイも、今年度これで最後となりました。この毎年繰り返される、感慨深い瞬間を迎え、同教団のみなさんからメッセージをいただきました。どうぞ読んでください。

この一年を振り返って 学習会専任指導員 清水 優樹

3年生のみなさん卒業おめでとう。2学期の終わり頃から高校入試までの間、本当によくがんばっていたように見えた。このがんばりは、みんなの将来に何かの形で良い影響を与えてくれると思う。今回の機会に自分のこの一年を振り返ってみたい。

4月から学習会専任指導員として、板野中学校に勤め始めた。当初は、自分の気持ちの中で部落問題を他人事として捉えていたように思われる。実際、この時までの自分の生活の中に部落問題は存在していなかった。(もしかしたら見落としていただけなのかもしれないが)けれども、夏の終わり頃に自分の友人が、部落差別のせいで悩んでいる姿を見たときに「このままじゃだめだ。部落差別は今も残っている、自分の問題なんだ。」と思えた。誰かに言われてじゃなく、自分で素直にそう思えたことが、自分の中でとてもうれしかった。このことをきっかけとして、学習会に対する考え方も少し変わった。これまで自分の中で、学習会は『学力保障の場』としてしか見えてなかった。子どもたちに学力つけることも大切なことだとは思っている。しかし、実はもっと大切な意味があるんじゃないだろうか。そう思って考えてもみたが、今の自分ではまだ答えは出てこない。ただ、この一年の後半は『子どもたちと教師との心の距離が最も近づく場』として学習会の雰囲気をつくってみたいと試みた。

また、2年生と一緒に全体学習ができたことも強く印象に残っている。5クラスみ

んなの前で自分は何が話せるのか悩んだ。けれども、吉成先生をはじめ、次本先生や2年生の先生方、同じ学習会の先生たちの協きょうりょく力、何より子どもたちの応援もあつて、現時点での自分が納得なっとくのいく全体学習ができたように思う。自分で言うのもおかしいが、2年生のみんなには、あの全体学習の雰囲気、友達が泣きながら話す声を聞いた時の、あの思いを忘れずにいて欲しいと思う。これから生活していく中で、いろいろな場面に出会い、さまざまな経験けいけんを積み重ねていくと思う。それぞれの経験から、1つでもいいから何かを吸きゅうしゅう取とっていききたいし、みんなにもそうなって欲しいと願っている。人からどんなにたくさん話を聞いても、それは他人事じでしかない。だからこそ、実際に自分で経験することを大切にしたい。みんなと過ごしたこの一年間は本当に楽しく充実じゅうじつした一年間だった。

今年の4月からは自分も違う学校に行くことになると思うけれども、この一年間のことは本当に忘れないうと思う。板中生のみんな一年間ほんまにありがとう。それではまた会う日まで……

学習会がくしゅうかいについて

学習会専任指導員がくしゅうかいせんにんしどういん 岡田千亜紀おかたちあき

学習会がくしゅうかいがある理由りゆうを知っている人はどれだけいて、どれだけの方が学習会と私は関係ないと思っている人がいるのだろうかと考えたりしてしまう。学習会のある理由を簡単かんたんに言ってしまうと、部落差別によって学校に行くことができなかつたり、勉強が十分にできなかった人が学力をつけるために、また、部落差別を受けても立ち向かっていける力をつけるためにつくられたものであると言えます。この裏うらを返せば、この学習会が今も続いているということは、部落差別が今も残っているということです。私は実際じっさい、部落差別を受けている人がいるのを知っているし、自分ももしかしたら受けるかもしれないと思っています。このように、部落差別が今まだ残っているのをみなさんは知っているでしょうか。興味きょうみがない、関係ないと思っている人もいます。けど、そんな人にも一緒いっしょに考えてもらいたい。クラスの中や友達の中に差別されるかもしれない人がいて、もしかしたら自分が差別してしまう人になるかもしれないからそう思うのです。

私はまだ自分が部落差別を受けたことがないので、実際差別を受けたときの苦しみや怒りいかを感じたこともありません。しかし、差別を受けるかもしれない立場たちばにいる私は、実際差別を受けていなくても、受けるかもしれないということで不安ふあんになることもあり

ます。それは部落差別があることを知っているからそう思うし、一番問題になる結婚差別が、自分にとって身近な問題になってきたからかもしれません。考えすぎかもしれませんが、好きな人ができて結婚したいと思ったときに、私は自分が部落だということ^{あいて}を相手にうち明けたら、相手の私に対する気持ちが変わってしまわないかと不安になったりします。こんな風^{ふう}に思うのも、同和対象地区出身だということがわかってから、結婚が破談^{はだん}になった話をいくつも聞いているからです。

もしかしたら差別されるかもしれない人の多くは、こんな悩みを将来持つようになるかもしれません。そんなときに、学習会で一緒に勉強したりいろいろな話をした仲間がいれば、相談^{そうだん}したりして気が楽^{らく}になるかもしれないし、何か良い解決策^{かいけつさく}を一緒に見つけることができるかもしれません。私はそういう将来のために学習会はあるとも思っています。だから、学習会に参加するはずの人は、できれば全員参加してほしいし、その中で悩みをうち明けられる関係をつくってほしいと思います。

学習会に参加していない人は、差別を受けるかもしれない人がどのようなことで悩んで、不安になっているのかを知ろうとしてほしいし、知ってほしいと思います。もし将来結婚する相手が悩んでいたら、「関係ないよ」だけじゃなくて「いっしょに考えよう」と言える人になってほしいです。そうなるためには正しい知識^{ちしき}を持っていないといけなから、学校で部落差別について知る機会がたくさんあるので、そこでしっかり学習してほしいと思います。卒業生の人^あも、中学校を卒業してそれぞれ新たなスタートを迎え^{むか}えると思いますが、日々の生活の中で何かを学び続けてがんばって下さい。在校生^{ざいこうせい}のみんなも負けずにがんばろう。

3年生のみなさんへ

織田 裕二

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんと初めて出会ったのはおとしの夏^{とうじ}でしたね。当時^{とうじ}大学生^{だいがくせい}だった僕^{ぼく}が、教育実習生^{じゅうしゅうせい}としてこの学校に帰ってきた時です。当時^{とうじ}少し緊張^{きんちやう}していた僕に、みんなが温かく接^{せつ}してくれて、楽しい2週間を過ごしたことが昨日のように思い出されます。また、僕の人生の中で、最初に僕のことを「先生」と呼んでくれたのもみなさんでした。初めて「先生」と呼ばれる立場になって、みんなと一緒に過ごし、勉強できたことが今の僕の大きな財産^{ざいさん}となっています。

今年度^{ことねんど}になって、再び僕^{ぼく}が板中^{いたなかつ}に帰ってきてからも、最初に明るく笑顔^{えがお}で僕に声を

かけてくれたのは3年生でした。その時僕はみなさんと再会できたことの喜びを実感しました。そして、この1年間も、とても楽しかったです。授業で3年生に行くことはなかったのですが、学習会で一緒に勉強したり遊んだりしたこと、いろいろな子と休み時間や放課後におしゃべりしたこと、人権劇「SEASONS」に取り組んだこと、野球部で郡大会を勝ち抜いて県大会に出場したこと、そして受験に向けて南公会堂で一緒に頑張ったことなど、さまざまな思い出をみなさんからもらいました。

そんなみなさんもいよいよ卒業ですね。「15の春」はどうですか？多分、希望に満ちあふれている子もいれば、不安や寂しさを持っている子もいることでしょう。しかし、若いみなさんには無限の可能性が広がっています。多分これから何度も挫折する時はあるでしょう。でも、そんな時でも常に自分の信じた道を進んで下さい。僕はみなさんに、常に目標を持って、辛いことや困難なことに突き当たっても夢を追いかける、そんな生き方をしてくれることを願います。僕は、多分これからも板野町に住んでいると思います。もし、悩みを持ったり、苦しい時があったらいつでも相談にのります。もし、僕でよかったらいつでも話して下さい。それでは、これで僕の思い出の皆さんへの卒業のはなむけの言葉にしたいと思います。またいつか会いましょう。

赤沢健志

ある日の私

同和教育担当3年が終わる次本知己

昨年の12月、サッカー大好き中年の私は、愛する横浜Fマリノスをサポートするために、県外に飛んでいました。試合は相手に1点先制されるものの、すぐさま追いつき同点。そして、延長に入ってから前半、Fマリノスの木島選手のJリーグ初ゴールとなるVゴールが炸裂！2-1で勝ったのでした。

内容は今ひとつながらも、勝ちも勝ち。いい気分スタジアムをあとにして、駐車場へと歩いていました。すると、小さな女の子が泣きじゃくっている姿が目に入ったのでした。すぐに迷子だとわかりました。多くの人が彼女の前を通り過ぎていきます。「どうしたのかな？親とはぐれてしまったんだろうか？」と、不思議そうに見ながら通り過ぎていきます。

私は彼女の横まで来ました。そして、「どうしたん？」って声をかけようとしたんですが、そのまま通り過ぎてしまいました。そのまま行ってしまったんです。あの時心の中で、「こんなところで声をかけていたら、変に思われてしまう。誘拐犯と思われるか

もしれない。」「ようけ人が歩つきよるし、ここで立ち止まったら**迷惑かかるな。**」

「一人で試合を見に来るんでなかった。家族と一緒なら何の気がねなく声が掛けられるのに。」などと、一瞬に考えてしまったんです。

彼女の泣き叫ぶ声が後ろから追ってきます。私だって一人の子の親です。人混みの中家族とはぐれて、不安で不安で、悲しくて、怖くて、泣き叫ぶ彼女の姿に、自分の子の姿がだぶってきます。でも、戻っては行けなかった。歩き続けていく私……。

しかし、気になって仕方ありません。で、どうしたか。結局50mぐらい離れたところで、**誰かを待つ振りをしながら様子を見ていた**んです。ほどなく一人の女性が声をかけました。「どうしたの？おうちの人は？」って、たぶんね。そして二人で大勢の人が通り過ぎる中、女の子の家族が現れるのを待っていたんです。

二人の姿を遠くで見ながら、私は頭の中が混乱していました。「私は何をしような一っ。それでも人を前に同和教育について、優しさについてえらそげに語りよるのに、何なんな一っ。」「Y先生だったら、絶対声をかけとるよ。」何か自分に腹が立って、腹が立って。

あれこれ考えている内にふと気がつけば、女の子も女性も、姿が見えなくなっていました。きっと、家族が探し出したんだらうって、そう思いこんで再び歩き始めました。そう思いこまにゃ、車に乗って家に帰ることなんてできなかつたと思います。試合に勝ったうれしさなんてどっかに吹っ飛んでしまい、自分に対するなさげなさど腹立たしさだけが残る1日となってしまいました。

口では何とでも言えますし、頭の中では何とでも考えられます。しかし、要はその時自分がどう行動するかです。私たちは、今まで部落問題学習を進めてきましたし、それを通して自分の生き方について考えてきました。だから、ここっというときには行動せにゃあかんのですよ。人に優しく、相手の立場に立って考えてっというならば、迷子になった子どもが泣いていたら、まずは声をかけて、事情を聞いて、「ここで待っていたらきっと家の人が探しに来るから、それまで一緒に待っていよう」と励まして、少しでも不安な気持ちを和らげるようせにゃあかんのじゃないですか？

「思いついたら即行動せい！悪いことするんでなかつたらね。」と、子どもの頃から何人もの人に聞かされてきました。わかっはいても行動に移すことができず、悲しい思いやつらい思い、後悔をいっぱいしてきました。今回もそうでした。そのことが、今度こそ、今度こそは！っていう気持ちとなり、少しの部分だけど明日も生きようっとい

う気持ちにつながっているんです。

ここまで読んでくれたみなさん、ありがとうございました。みなさんはどう思われましたか？

我が「ふるさと」板野 この地で一昔を終える 吉成 正士

うさぎ追いし かの山	いかにいます 父母	志を 果たして
小ぶな釣りし かの川	つつがなしや 友がき	いつの日にか 帰らん
夢は今も めぐりて	雨に風に つけても	山は蒼き ふるさと
忘れがたき ふるさと	想いはずる ふるさと	水は清き ふるさと

私も歳をとったのでしょうか……この歌詞を口ずさめば口ずさむほど、胸にじんわりと熱いものがこみあげてくるようになりました。本当の同和教育に出会ったからかどうかは分かりませんが、それ以前は、単なる童謡の一つにすぎず、その一言一言を深く、じっくりかみしめるということはありませんでした。もしかすると、今のみなさんもそうかもしれませぬね。

でもこの10年、つまり板野中学校に来てから、自分が幼かった頃のこと、家族のこと、友達のこと、お世話になった人たちのことなどをよく考えるようになりました。

無邪気に遊んだ懐かしい場所、小道、秘密の隠れ家、お寺、神社、学校、公園、広場、田んぼ、畑、川、土手、そして今はもう決して行くことのできない場所たち……。

写真の向こうにある幼顔の自分、そして今も面影の残る、懐かしい顔、顔、顔……。きな臭い、あの何とも言えない雰囲気、空気、風、空……。

あたたかくて大きかった、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん。共に賑やかに過ごしたお兄ちゃん、お姉ちゃん、弟たち、妹たち……。

そして、いつもあたたかく包み込んでいた、生まれ育ったこの地……。

決して帰ることのないあの瞬間を想うと、「幼い頃にあのあたたかい空気に包まれて良かったな……」としみじみ思えるのです。そしてこの歌を聞かたび、「日本人として生まれて来て良かったな……板野に来てよかったな……みんなと出会えて良かったな……」と思ってしまうのです。こんな豊かな気持ちにさせてくれるみんなは、私の大きなエネルギーの源であり、宝物です。今まで本当にありがとう。そして、「さよなら 大好きな人」たち……またどこかで……



◆板野町には、^{こうこうせいとも}高校生友の会「^{かい}真友会^{しんゆうかい}」というもの

があります。毎週土曜日の夜に集い、部落問題や他の差別問題、またそれぞれの高校生活などについて話し合いをしています。卒業生のみなさん、来てみませんか？もちろん中学生の参加も大歓迎です！とりあえずは、タイミングの良い今週末の3月17日(土)に集合をかけようと思いますので、関心のある人は是非来てみてください！なお、当日は真友会の卒業式を予定していて、19:30すぎにスタート、21:00には終了するそうです。

3月17日(土)の19:15~19:45に板野町総合センター玄関前で吉成が待っています！

※「真友会」に迷惑がかかるといけないので、保護者の了解を必ず得て来てください※

◆お知らせこの1年間のマイスカイは、まとめられて一冊の本となります。「ほしいなあ」という生徒、保護者のみなさんは、吉成までご連絡ください。

◇ これからの日程 ◇ ◇ ★3月13日(火) 卒業式 ★3月23日(金) 終了式

